



選挙戦を終えて

4月9日、3期目の当選を果たし改めて4年間の貴重な任期を与えていただきました。前回無投票だったので今回は8年ぶりの選挙戦でした。しかもコロナ禍のあと、そして一連の強盗事件の影響もあり、従来と大きく異なる選挙戦でした。

選挙後、投票率の低下が叫ばれました。私見ですが、有権者は

- ① 政治に関心があり他にも投票を呼びかけて積極的に関わる人
- ② 政治に関心があり投票はする人
- ③ 全く無関心な人

大きく3つに分かれる気がします。中でも多くを占めるのが②と③の方々だと思います。私はその「声なき声」にどうすれば関心を持っていただけるか腐心してきました。考えあぐねた結果が『活動の見える化』でした。2003年、初めて市議に立候補した時から継続してきたブログや、Facebook等SNSでの発信の充実に加えて、県議になってからは毎月発行する広報誌「高島和男がゆく」を通して最新の県政の話題や地域の課題、日々の活動をお知らせしてきました。



「議員は選挙の時ばかりで、日頃何をしているのかわからない…」が結果として有権者の選別を奪い、投票率の低下、ひいては政治不信に繋がっていると思います。私は引き続き様々な手法を駆使して『活動の見える化』で信頼回復、投票率アップに努めます。

戦いを終えて「選挙は必要」とつくづく思いました。なぜなら選挙戦を通じて県政への要望や地域の課題を教えていただくことが、その後の活動に直結するからです。また街頭演説の途中落涙することもありました。それは感謝と感動をいただくからです。そしてその感激が私の4年間を支えるモチベーションになります。

今後も県議会議員として、県政の発展に寄与するのは当然のこととして、地域の課題解消にも真摯に愚直に取り組んで参ります。続いてのご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



街頭演説の「コマ」

高島和男の遊説隊はボランティアの皆さんで編成されます。今回も初心者を含めて多種多様な方々にお集まりいただき、初めて男性にも乗っていたいただきました。最初はどなたも緊張されますが、次第に慣れて語彙力も豊富になり、自信を持った口調に変わっていくのが手にとるように分かります。



2世議員ではありません。組織に属しているわけでもなく、特定の団体のあと押しがあるわけでもありません。お一人お一人が高島和男をご理解いただき支えてもらっています。



議員は先生ではありません！「先生」と呼ばれることに慣れた瞬間から議員の間違いが始まります。



市議員を2期8年、県議員を2期務めて参りました。キャリアと人脈があります。それが迅速な課題解決の要因であり、私の持ち味であり強味です。

今回県議会の有志で朝夕の時間帯は遊説を控えましたが、期間中お騒がせしたことを改めてお詫び申し上げます。

